

人は3歳までに人格が形成されると言われる。その間に一番接しているのは母親。慈愛の心、人としての生き方、仕事への厳しさ……。特に子に対して深い愛情を注ぐ母親は偉大な存在だ。日本を代表する経営トップは母の生きざまから何を学んだのか。それを通じて現在の家庭教育のあるべき姿を考える。

「二度立てた目標は必ず完遂するという母の姿から、今も影響を受け続けている」

「優しい雰囲気ながらも、強い意志を持った母でした」と話すのは日総ビルディング社長の大西紀男氏。小型のオフィスビルをレンタルオフィス「エクスパートオフィス」として再生するなど、ユニークな不動産事業を展開中。大西氏の人格形成には母・君枝さんの教育が強く影響している。几帳面な部分、そして目標を必ずやり遂げるといふ意志の強さが受け継がれている。

日総ビルディング社長
大西 紀男
Onishi Norio

家庭教師を探し出し 自ら依頼する行動力

私の母・君枝は1913年（大正2年）9月、神奈川県横浜市で生まれました。祖父は愛知県で小型船舶造船の中小企業を経営していたそうです。地元の鶴見高等女学校（現・鶴見大学附属中学校・高等学校）を卒業し、保育士・幼稚園教諭の資格を取得して幼稚園で働いていました。

見た目も話しぶりもソフトで優しい雰囲気ですが芯が強く、何よりも強い意志を持っていました。一度、意志を固めたら余程のことがない限り、変わることはありません。

母は「○○をやらないといけない」、「○○をやらないといけない」とは言わないのですが、常に母の思う方向にじわりと引つ張っていかれて、それ以外のことはしにくい雰囲気になってしまっていました。まるで「真綿で首を絞められている」ような感じでした（笑）。

そして母は「教育ママ」の元祖のようなものだと思います。ただ、やはり「勉強をしなさい」とは言いません。

私は小学校6年生の時に、中学受験に失敗して悔し涙を流し

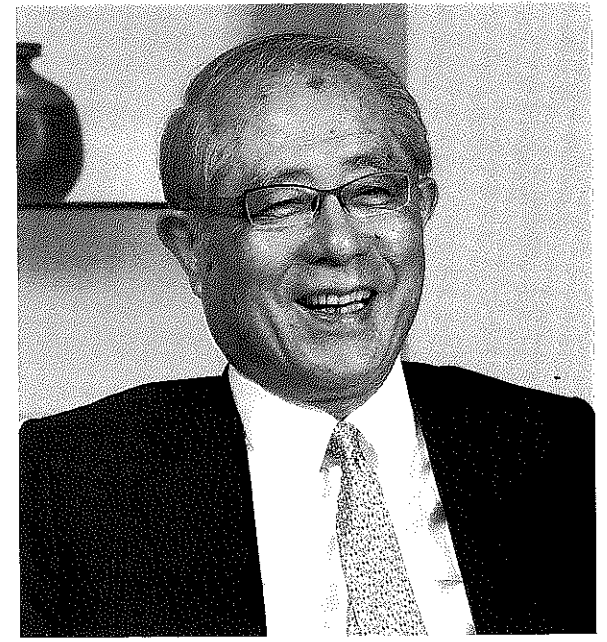
ました。そこで母は高校受験に備えて、人から聞いて評判のいい英語、数学、国語の家庭教師の家を直接訪ねて、依頼をしたのです。そこからそれまで以上に勉強をするようになり、成績が一気に上がりました。

この時に勉強が面白いと思えるようになり、計画を立てて、そこに向かって歩いていく姿勢が身に付いたのは、いい先生に出会えたからだと思います。母の行動力があつたからこそこの出会いです。

私が受験の時期、母は好きなお茶を1年間断つ、冬の浅草寺に神奈川県の藤沢から毎日お参りに行く、月に1冊、般若心経の写経をして納めるといった形で努力する姿を私に見せていました。

習い事にも取り組みました。これは父も同じ姿勢でしたが「教養を持った人間になって欲しい」ということで小学校低学年からバイオリンを習い始めました。今で言う「スズキ・メソード」（音楽を通じて心豊かな人間を育てることを目的とする教育法）の教室に兄は水が合つて中学卒業まで、私は合わずに3年間だけ通いました。

バイオリンをやめることは認められなかったが、母は「何



おおにし・のりお
1946年神奈川県生まれ。69年慶應義塾大学経済学部卒業後、三菱信託銀行（現三菱UFJ信託銀行）入行。74年東横倉庫入社、75年社長。2003年日総ビルディング社長に就任。

かかった方がいい」というので小学校5年生から絵画教室に通いました。これが非常に私に合つて、中学・高校と美術部に所属して油絵に打ち込みました。この経験は今、建物や空間のデザインをするにあたって大いに役立っています。

厳しい創業期に 父親を支えて…

父・清輔と母はお見合い結婚でした。父は粟島商船学校（現

国立波方海上技術短期大学校）を卒業後、大阪商船（現商船三井）の北米航路の一等航海士として勤務。

その後、南満洲鉄道（満鉄）に転職し、大連港の港湾管理の仕事に従事していました。この時に最初の結婚をしたのですが死別をし、私達にとって姉にあたる子供を連れて、1940年（昭和15年）に日満倉庫株式会社川崎営業所に出向となり、ここで母と再婚したのです。

父は母を一目見るなり惚れ込んで、何とか結婚したいと日参したと聞いています。母は後に「父の情熱にほだされた」と結婚の動機を話していました。

母は1943年に兄、46年に私を出産。戦中・戦後の混乱の中で男の子2人を懸命に育てました。また、父は終戦後、満鉄がなくなつたため1年ほど失業。ただ父は日満倉庫時代に、他の大手倉庫会社の課長クラスの方々と親しくなっていました。特に財閥系の倉庫会社は、財閥解体後に幹部クラスが追放されたこともあって、父と仲がよかつた方、その中でも三井倉庫の方が一気に横浜支店長となり、父に「横浜港の港湾荷役・通関の仕事を出すから会社を起こしては？」と促してくれたのです。

創業当時は資本がありませんから、働く人達の日当など、お金は先に出ていく一方、売上代金は3カ月先に入金されるので大変です。当時は家にお金がほとんどなかったと母は言ってい

ました。資金繰りは厳しいものがあつたと思いますが、母は会社を起こして奮闘する父を支えました。

幸い、父は創業2年後には横浜駅西口にあつた製粉工場跡地を取得し、倉庫を建てて営業を開始するなど経営は順調。一気に横浜を代表する物流会社として認知されるようになったのです。

しかし、1960年に父は心筋梗塞で倒れます。ただ、一命は取り留め、1年間の療養生活の間に港湾・荷役会社を甥に売却、ビル賃貸事業への転換という方向性を打ち出しました。その後は事業を伸ばすのではなく会社を筋肉質にすることに力を注ぎ、事業承継を見据えて大学1年生になった兄を後継者として教育すべく毎日、会社に通わせていました。父は68年に亡くなりますが、それまでに事業の道筋を付けたのです。

母はその頃、「自分の育児は終わった。人生を楽しむ」という考えに基づき、茶道を習った

シリーズ 母の教え 第126回



大西さんに目標を完遂することの大事さを教えた母・君枝さん

り、友人たち10人くらいと『源氏物語』の研究会を発足させます。茶道は指導ができるほどになり、研究会は月1回、10年ほど続けました。

人を惹きつけたり、頼られることの多い母でした。例えば父の相続に関する調査に来た税務署の担当者の奥さんが東京會館で料理を勉強して、教えられるくらいになったとかで、母に「料理教室を主宰して欲しい」と頼みに来られたこともありました。母の人脈を期待してのことだったようです。そこで母は7、8人の友人を集め、月1回の料理教室を開いていました。母は学んだ料理を私の妻にも教え、我が家の定番料理になり

ました。その一つ、「エビのクリームソース パターライス添え」は私の二男の結婚式の料理として出させてもらいました。私の子供達は東京會館で食事をすると「お母さんの味に似ている」と言います(笑)。

あたり、倉庫事業を100%子会社「東横倉庫」として分社化しました。兄は倉庫事業にあまり熱意がなかったので「私に任せて欲しい」と頼み、社長に就任しました。

中立を守りました。兄と私はケンカ別れをしたわけですが、母は「仕事は別々でも兄弟の縁を切ってはいけない」といつて、母の誕生日、父の命日、お正月にはみんなが集まっていました。兄と私は居づらいつい思いをしていましたが、お互いの家族は仲良くしてました。当時、母は「意地でも昔のよいうな仲に戻す。そうしなければ死ねない」と言っていました。

「兄弟仲良く」という願い

両親ともに、兄弟仲良く会社を経営して欲しいと願っていました。私は69年に大学を卒業した後、亡くなる直前の父から「入ったら家業を継げなくなる」と反対されたのを振り切り三菱信託銀行(現三菱UFJ信託銀行)に入行しました。74年に家業に入りますが、兄が経営、私が財務を見るという役割分担で当初は順調でした。しかし私が「銀行借入れをして拡大すべきだ」と主張、貸しビル事業に転換し「慎重に経営すべきだ」という兄との間で大きな意見の相違が生まれました。

家業をビル事業に転換するに

その後、土地オーナーの方々に倉庫を建設していただき、当社が一括で賃借して、テナントに転貸する「サブリース倉庫事業」を推進したところご好評をいただきました。

さらに積極拡大を主張する私に兄は「そんなに拡大したいなら、資本関係を解消して1人でやりなさい」ということで、私が保有していた家業の株式を買い取ってもらい、家業が保有していた東横倉庫株を私が買い取り、家業から独立しました。81年に社名を日本総合建物に変更、02年に現在の日総ビルディングにしたという経緯です。

この間、母も家業の株式を持つ立場でしたが、「私はどちらにも付かない。あなた達は大人なんだから、2人で話し合って結論を出しなさい」と一貫して

その後、兄も私もお互いに拡大路線をとって厳しい状況を経験、結果2000年頃には和解しました。母はここでも意志を通したわけです。今は夫婦で揃って旅行や食事に行くなど仲良くしています。

母は94歳で「息子2人と手をつないで死にたい」という最後の願いを叶えて亡くなりました。目標を立てたら成し遂げるといふ意志の力を改めて感じました。私もこの力を受け継ぎ、もう一段、会社を成長させるといふ目標に向かって、これからも歩んでいきたいと思えます。